

## 昭和戦前期の地方における台本検閲の恣意性

### ——関西プロレタリア演劇の事例について

言論統制、検閲、プロレタリア演劇、関西、大岡欽治

和田 崇

本稿は、関西のプロレタリア演劇団体が1930年前後に検閲を受けた台本を分析することを通じて、地方における台本検閲の実態を考察している。昭和戦前期の日本の検閲制度では、出版物や映画の検閲を内務省が、演劇台本の検閲を警視庁や各道府県の警察署が担当した。そのため、演劇団体は上演地を変えるごとに検閲を受け直す必要があった。東京よりも関西の検閲の方が厳しかったという証言が多く残されており、それは実際の検閲台本でも確認できる。また、内規が存在したことにより、検閲で削除された箇所は地方間である程度の一貫性があった一方、同じ関西でも異同が生じることもあった。さらに、台本とフィルムで検閲の管轄が異なっていたため、劇中に映像を用いるような斬新な演出は自粛を余儀なくされた。このように本稿では、地域や管轄など、検閲主体の変化によってどのように検閲結果に差異が生じたのかを明らかにしている。